

令和 5 年 7 月 2 8 日

備蓄計画の改訂について

1 改訂の目的

令和 4 年 5 月に「首都直下地震等による東京の被害想定」（東京都防災会議）が修正され、備蓄数量の根拠となる数字に変更があったことから、備蓄計画についても見直しを行う。

2 被害想定の新旧比較

小金井市における被害想定（多摩直下地震）

	平成 2 4 年 4 月版	令和 4 年 5 月版		
避難者数	避難所生活者 19,822 人 疎開者 10,673 人	1 日目 12,448 人（うち 85%が避難所生活者） 4 日～1 週間後 21,091 人（うち 3 分の 2 が避難所生活者）		
帰宅困難者	徒歩帰宅困難者 22,652 人	帰宅困難者 19,806 人 うち行き場のない帰宅困難 3,149 人		
物資必要数	（記載なし）	食料	～ 3 日目	70,000 食
			4～7 日目	160,000 食
		飲料水	～ 3 日目	60,000 L
			4～7 日目	110,000 L
		毛布	必要量	30,000 枚

3 主な改訂点

- ◎ 新たな避難者数に基づいて必要備蓄量を再計算した（概ね必要備蓄量は減少した）。
- ◎ 食糧及び飲料水については家庭内備蓄の影響が大きいため、従来の原則 1 日分を前提として計算すると大幅な必要備蓄量の減少となるが、そのまま備蓄量を減らすのではなく、原則 3 日分の備蓄量として計算し直し、備蓄を強化する形を採った。

4 年次計画

裏面のとおり